

Ⅲ 地域戦略ビジョン

農業プロによる担い手の育成

(農業指導士、認定農業者、青年農業者、女性農業者、新規就農者／西条市、新居浜市)

東予地方局 地域農業育成室

活動の背景

新規就農者が増加しており、就農支援活動の更なる充実を図るため、地域農業の担い手である認定農業者の経営発展や地域での活躍の場作りを進めてきたが、十分に発揮するまでに至っていない。

そこで、地域リーダーの「農業プロ（農業指導士等）」と新規就農者等の各種マッチング支援や組織活動により認定農業者、青年農業者とともに地域農業を支える農業者を育成する。

到達目標（H29年実績→R4年目標）

- ・アドバイザー数：14人→35人
- ・マッチング実施数：0回→12回
- ・認定農業者等へのレベルアップ数：0人→15人

活動内容

1 農業プロ（アドバイザー）活動の充実

- ・認定農業者協議会理事会で新規就農者の意向調査結果を説明し、新規就農者を支援することを意識統一

2 就農候補者への支援

- ・月3回の就農相談会開催
- ・地元版「新規就農の手引き」の作成

3 就農初期農業者への具体的な支援

- ・就農初期農業者研修会の開催（対象者の拡大）
- ・プロジェクト活動による課題解決サポート



【農家アドバイザーを活用した研修会】

活動の成果

1 農業プロ（アドバイザー）の活用

- ・農家アドバイザーの拡充（H29年度 14人→R4年度29人）
→新規就農者を支援する体制の確立
→集団サポート3回延42人参加、個別サポート5回延9人参加

2 就農候補者への支援

- ・就農相談会を76回（相談者53人）実施
→6人が就農、5人が就農準備資金受給、12人に研修先や農地の取得・事業活用等の相談を継続支援

3 就農初期農業者への具体的な支援

- ・就農初期農業者研修会7回延121人参加
（研修対象者：農業研修生・就農相談に来た受講希望者に拡大）
- ・新技術取得視察研修会3回延17人参加
- ・重点指導対象7人を設定し、定期巡回指導を行うとともに、担い手担当者会及び営農指導者会で対応策を検討
- ・認定新規就農修了者に対し、更なる経営発展を目指すために経営改善計画作成支援を行い、5人が認定農業者に移行した。
- ・花木の高温対策、アスパラガスの未利用部分を活用したお茶の検討等のプロジェクト活動を実施



【地元版の就農手引き作成】



【就農初期農業者研修会：現地視察編】

今後の活動

- 農家アドバイザーをJAの生産部会長等へ拡充することで、対応可能な品目や技術の拡大を図る。
→新規就農者が制度を活用しやすい仕組みづくりを行う。
- 就農希望者の研修支援、農業プロ（アドバイザー）を活用した就農後の個別指導や研修会を開催し、JA、市が一体となった販売目標額達成の支援を行い、新規就農者の所得向上・定着を図る。

滞在型グリーン・ツーリズムの拡大による豊かな農村地域の創造

(しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会/しまなみ地域)

今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班

活動の背景

しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会は、地域資源を活かした都市住民との交流を実践し地域活性化に寄与してきた。近年はグリーン・ツーリズム活動の更なる発展を目指して体験民泊など滞在型交流の拡大を進めており、地域における協議会を核とした受入体制の整備やコロナ禍に急増した教育旅行の定着促進とともに、協議会の自立化に向けた効率的な運営体制の確立が課題となっている。

到達目標 (H29年実績→R4年目標)

- ・体験民宿受入農漁家数：19軒→28軒
- ・体験メニュー数：28体験→35体験
- ・体験交流利用校数：10校・団体→30校・団体
- ・夏秋季の利用校数：4校・団体→18校・団体

活動内容

1 インバウンド等受入拡大支援

- ・体験民泊受入農漁家の掘り起こし及び開設準備
- ・新たな体験の掘り起こし及びメニュー開発
- ・地域内企業等との連携による体験コンテンツの充実
- ・SDGs学習に対応した体験等の開発

2 協議会員の資質向上、協議会の自立化支援

- ・協議会の円滑かつ効率的な運営のための体制強化
- ・体験交流利用校数拡大、夏秋季需要の開拓による業務平準化

活動の成果

1 アフターコロナを見据えた滞在型交流の受入体制整備

- ・1ターンの農家等を中心に体験民泊の取組みを推進
→3軒(計28軒)の受入農家を確保
- ・若手農家等に農業体験の受入れを提案
→「みかん狩り」など4つのメニューを追加(計36体験)
- ・観光事業者との連携により会員農家と異業種の交流が活性化
→サイクリングと「レモン懐石」等のセットメニュー開発
→国内外の専門家向けファムツアー開催を支援
→タクシーを活用した新たな教育旅行プランの推進 等
- ・教育旅行ニーズの対応と持続可能な農業に関する意識向上
→SDGs体験プログラムの作成を支援
(「塩生キャラメルづくり」など3体験)

2 会員個々の資質向上と協議会の安定的運営に向けた体制強化

- ・先進事例である県外の一般社団法人への視察研修を企画
→参加者(会員11名)が安定的な組織運営等を習得
- ・事務局職員1名と今治市の協力で配置された地域おこし協力隊1名により教育旅行受入れ等に円滑に対応できるよう指導
- ・教育旅行来訪校へのアフターフォロー、夏秋季の体験メニュー充実及び旅行会社へのPR活動等を継続的に支援
→R4年度受入実績 45校(うち春季25、夏秋季20)に増加



【人気メニューのみかん狩り】



【外国人向けファムツアー】



【教育旅行受入れの推移】

今後の活動

- 協議会活動への支援については、当初計画した目標を達成したことから一般要請課題として対応
- 当地域の担い手の経営発展に向けた手段の一つとして、グリーン・ツーリズム活動の収穫体験等を取り入れた経営の多角化を推進し、協議会と農業者とのマッチング等を支援

次代の地域農業を担う女性農業者の育成と組織活動の強化

(女性農業者／伊予市、松前町、砥部町)

中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班

活動の背景

地域農業を担う認定農業者数の減少や女性組織の活動が低迷する中、県では「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ（以下、「さくらひめ）」を組織し、担い手組織の活性化に努めている。

そこで、既存の女性農業者組織の活動強化と「さくらひめ」への加入促進や、さくらひめファミリー組織「葉れるや」の組織活動を強化し、担い手として女性農業者が活躍できる環境を整備する。

また、女性農業者組織間のネットワーク活動を通じて、経営力の向上や会員同士の協働関係の構築を図り、次世代リーダーの育成に繋げる。

到達目標（H29年実績→R4年目標）

- ・「さくらひめ」メンバー数：9人→20人
- ・さくらひめファミリー組織：0組織→1組織

活動内容

1 一次産業女子ネットワークの構築・活動支援

- ・若手女性農業者の掘起こしや「さくらひめ」への加入促進
- ・「葉れるや」の体制強化（SNS活用研修会の企画等の活動支援）

2 女性農業者の経営参画推進

- ・女性認定農業者等で構成する「あいネットワーク」の先進事例収集及び経営力強化のため、研修会・視察研修会の活動を支援

3 組織間交流と活動支援

- ・ネットワーク拡大を視野に、さくらひめ交流・研修会の参加促進
- ・グループ活動の認知度向上を目指し、地域活動への参画支援



【媛かぐやの共同栽培についてテレビ取材を受ける「葉れるや」】

活動の成果

1 一次産業女子ネットワークの構築・活動支援

- ・若手女性農業者1人が「さくらひめ」に加入
→メンバー数：19人（H29年度比 211%（10人増））
- ・「葉れるや」が「媛の国一次産業女子活躍推進事業」を活用して、SNSでの活動内容の発信（17回/年）やテレビ取材によるPRを実施することで、協働意識と情報発信力が向上
→年間活動回数が8回/年に増加（前年比 133%）

2 女性農業者の経営参画推進

- ・視察先の特産品を利用した加工品づくりと経営ノウハウを学び、「あいネットワーク」の会員の経営参画への意識が向上
→会員14人が自家の経営改善に取り組んだ

3 組織間交流と活動支援

- ・さくらひめ交流・研修会に「葉れるや」の会員4人が参加
→機械研修により、スマート農業機械の導入意欲が向上
→他地区の女性農業者と積極的な交流を図るようになった
- ・伊予地域で開催される「とべ楽市」などの地域活動に「葉れるや」が参画（4回/年）し、知名度が向上
→消費者交流を通じて生産物（レタス、花き等）や活動をPR



【視察研修で先進的な経営ノウハウを学ぶ「あいネットワーク」】



【さくらひめ交流会・研修会へ参加する「葉れるや」メンバー】

今後の活動

- 「葉れるや」は、作成したPR資材や情報発信のノウハウを生かして更なる知名度向上を図る。
- 「あいネットワーク」は、その経営ノウハウや経験、地域活動を継承していくべく、活動を支援する。
- 次代の農業の担い手としてバトンを繋ぐため、組織間での交流を促進する。

鬼北地域における水田大規模経営体の育成

(認定農業者・青年農業者・法人／松野町・鬼北町)

南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班

活動の背景

鬼北地区は稲作に野菜、果樹を組み合わせた複合経営主体の中山間農業地帯である。近年は、基幹的農業従事者の75%が65歳以上となり、担い手減少と農地の遊休化が進んでいる。

経営規模拡大を目指す認定農業者も少なくないことから、集落営農の推進や経営規模拡大を目指す経営体への農地集積等により、収益力向上と地域農業の維持発展を図る。

到達目標 (H29年実績→R4年目標)

- ・規模拡大目標達成経営体 (5ha以上) : 3戸→20戸
- ・水稲・野菜栽培面積 : 174ha→210ha
- ・集落営農の法人化志向組織 (集落) : 0組織→1組織

活動内容

大規模経営体の農地集積・規模拡大支援

- ・省力化技術の実証・推進
直播 (点播)、密苗育苗、ドローン雑草防除の実証ほ設置
- ・省力化技術導入支援
電動機械導入事業の周知、自動水管理システム講習会、農作業ロボット実演会の開催
- ・農地集積合意支援
農地管理に関する意見交換会の実施、農地利用状況のマップ化ワークショップの開催、集落内での合意形成支援



【水管理システム省力化実証】

活動の成果

大規模経営体の農地集積・規模拡大支援

- ・省力化技術の実証・推進 (直播・密苗育苗・ドローン防除)
 - 密苗の利用で田植え時間が半分以下になることを確認
 - ドローン防除が受託可能な生産者が4戸に増加
- ・省力化技術導入支援によりスマート農業への関心が向上
 - 農薬散布用の大型ドローンを2戸が導入 (新規導入 1戸、追加導入 1戸)
 - 自動水管理システムを1戸が導入
- ・農地管理に関する意見交換の場を設け、農地集積を推進
集落内での農地管理に関する意向をマップ化することで、集落内での合意形成を支援
- ・担い手の栽培面積
 - 大規模経営体 (5ha以上) の農地集積面積が11ha増加し
担い手 (水稲・野菜) の栽培面積が210haに拡大
 - ※ 新規経営体で5haに向けた経営改善に取り組んでおり、到達目標である20戸は、今後達成の見込み。
 - 1組織が集落営農の法人化を検討



【ラジコン草刈り機の実演】



【農地の担い手マップ作成】

今後の活動

- 水田での高収益作物の導入と栽培実証、規模拡大に向けた省力化技術の実証を行う。
- 集落営農と農地の有効活用に向け各種事業等を導入し、高収益作物のブロックローテーションへの取組み等、営農計画策定を支援する。

鳥獣による農作物被害ゼロへ向けた取組み推進

(モデル集落等／大洲市、内子町)

八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班

活動の背景

大洲喜多地区は、イノシシによる農作物被害が大きな課題である。様々な対策を講じているが、生産者の高齢化により、防護柵（ワイヤーメッシュ柵、電気柵等）の維持管理が困難な地域の発生や、ハンターの減少等に伴う今後の被害拡大が懸念されている。

そこで、モデル集落を設置し、捕獲による攻め、防護柵等による守り、地域体制づくりの3つの柱に則った重点指導を実施。被害を減少させ、取組みの他地域への波及を図る。

到達目標（H29年実績→R4年目標）

- ・被害金額：大洲市 3,018万円 → 2,000万円、内子町 1,201万円 → 500万円
- ・モデル集落：0 → 5集落
- ・被害ゼロ達成モデル集落：0 → 5集落

活動内容

- 1 新規モデル集落（R4 大洲市長浜町出海地区）の育成
 - ・センサーカメラによる捕獲効率化の効果検証
 - ・防護柵設置管理講習会の開催
 - ・捕獲体制づくり支援
 - ・えひめ地域鳥獣管理専門員（JA愛媛たいき）との連携
- 2 継続モデル集落（R3～大洲市森山地区）の支援
 - ・集落見回りの開催
 - ・捕獲体制の再整備支援
- 3 農作物被害ゼロに向けた意識啓発
 - ・各組織・団体への狩猟免許取得の呼びかけ
 - ・ICTわなの捕獲実証、管内の同わな運用者間の情報交換支援



【1度に親子を捕獲】

活動の成果

- 1 新規モデル集落の育成
 - ・捕獲効率化の効果検証
箱わなを設置してセンサーカメラでイノシシの誘引状況を確認
→ 餌の量等を協議、調整し、イノシシの群れごと捕獲に成功
 - ・防護柵設置管理講習会に集落の農家15人が参加
→ 適切に電気柵を設置する農家が増加
 - ・捕獲体制づくり支援
農家とハンターとのわな見回り時の協力等を地域に提案
→ モデル集落数 5集落に増加
- 2 継続モデル地区の捕獲体制の再整備
 - ・地区内のハンターが引退のため、猟友会支部長を招き、住民5人と協議。今後は近隣地区のハンターが捕獲を担う。
 - ・被害ゼロ達成モデル集落 4集落に増加
- 3 ICTわなの捕獲実証、運用者間の情報交換支援
 - ・R4年度ICT捕獲わな（内子町）捕獲数：13頭
 - ・支局と連携し、管内のICTわな運用者間の情報交換会を開催。
 - ・イノシシ被害は抑制できたが、中型獣による落葉果樹の被害が拡大したため、被害金額の目標は未達成
→ 被害金額：大洲市 2,512万円、内子町 2,017万円



【防護柵設置管理講習会】



【ICTわなの情報交換会】

今後の活動

- 集落リーダーやハンター、鳥獣管理専門員も含めた関係者間の連携強化による情報共有と対策技術の普及に取り組む。
- 高単価の果樹で被害が顕著なタヌキ、ハクビシン、アナグマ等の中型獣対策についても検討する。